

平成 23 年 4 月 1 日

# 「校区」から 「地区」に変わります

**地**域コミュニティ区と行政事務区の呼称が、「校区」から「地区」に変わることを広報あらお 3 月 15 日号でお知らせいたしました。疑問点もあるかと思います。そこで今回は、Q & A で「校区」と「地区」についてお答えします。

## 「校区」と「地区」 基本的な考え方

「地区」には平成 19 年 4 月の学校規模適正化前の校区が引き継がれます。つまり、これまでどおりの地域コミュニティの単位と考えてください。そして、これまで使用してきた「校区」は今後、児童通学区のみを指すこととなります。

**Q** これまでずっと「校区」と言ってきたので、これからも馴染みある「校区」を使用したい。わざわざ「地区」に変更する必要があるの？

**A** 従来の「校区」は通学区＝コミュニティ・行政事務区（市が広報などでお知らせする地区割）でしたが、学校規模適正化によって一部の行政区の通学区が変更され、「通学区」≠「コミュニティ・行政事務区」となり、住民の皆さんの間で混乱が生じるようになりました（下の事例参照）。そのため、「校区」は通学区のみを指し、「コミュニティ・行政事務区」を「地区」と呼び変えることで、はっきりと区別できるようにします。

また、「校区」を使用し続けると、今後さらなる学校規模適正化が行われた場合、ますます混乱が生じることが予想されます。現在、旧〇〇小と表記する場合がありますが、今後のことを検討すると「地区」を新設することが最良な解決方法と考えられます。

### ● 事例 ●

- ①現在の緑ヶ丘小学校は、旧四小と旧緑ヶ丘小が統合して設立されましたが、コミュニティは統合せず、従来のコミュニティ単位で活動しています。
- ②学校規模適正化以前の中央小学校の通学区は、現在は一小校区、緑ヶ丘小校区に変更されたところがありますが、コミュニティは従来の枠組みのままです。

**Q** 通学区の変更があった校区のみ地区に変更すればよいのでは？

**A** 学校規模適正化は、平成 23 年の二小と三小の統合をはじめ、今後、平成 24 年度以降の後期計画も策定されます。

そのため、従来のコミュニティ活動を維持するには、市内全域を「地区」と変更したほうが、住民の皆さんへの浸透も早まり、活動もしやすくなると思われます。

※学校規模適正化については、荒尾市ホームページに掲載している「荒尾市学校規模適正化基本計画素案」などをご覧ください。

**Q** 地域元気づくりの名称はそのままでもいいの？

**A** 地域元気づくりの名称は、行政が決めるのではなく、地域で決めるものです。今まで慣れ親しんできた名称をそのまま使用していたで結構です。

**Q** 各地区の名称はどうやって決めたの？

**A** 平成 19 年度から、各地域コミュニティの皆さんと、地区制の導入と名称について数回にわたり協議を行ってきました。各地区の歴史・文化や住民の皆さんの思いを汲んで決定された良い名称となりました。今後使用していくことで、住民の皆さんに愛される名称となるよう、市でも周知していきたいと思えます。

**Q** 校区から地区になることで何か変わるの？

**A** 名称が変わるだけです。特段手続きが必要となることもありません。これまでの活動などが変わることはありませんのでご安心ください。これまでの地域の枠組みを維持し、協働のまちづくりを推進するために行うものです。

☎ 総務課 ☎ 63-1209

### 生涯学習の成果を元気に披露

～中央公民館まつり開催～

3月6日(日)から9日(水)まで、中央公民館とエポック・荒尾で、中央公民館まつりが開催され、中央公民館の自主グループで学んでいる人が、一年間の学習の成果を発表しました。6日には開会行事と舞台発表、バザーが行われました。舞台発表ではカラオケや太極拳、手話劇、謡曲などバラエティに富んだ発表に、盛大な拍手が送られました。また、絵画や書道などの展示に訪れた人は、日頃の学びの成果を感じて熱心に見入っていました。



▲うどんやホットドッグなどが販売されるバザーは、毎年大盛況。雨が降る中多くの人が訪れ、充実したひと時を過ごしていました。

### 雨にも負けず！遊園地を駆け抜ける

～荒尾クロスカントリーカーニバル～

3月6日(日)、グリーンランドで荒尾クロスカントリーカーニバルが開催されました。小雨の降る中、県内外の親子連れや学生など約620人が参加しました。ランナーが走るの遊園地内のアトラクションの下や、ゴルフ場を通るユニークで起伏に飛んだコースです。招待選手として有明高等学校陸上競技部女子の生徒も参加し、ゴール付近では白熱した戦いが繰り広げられました。一般の来園者からの声援もあり、大会はおおいに盛り上がりました。



▲寒さにも負けず、元気にスタート！親子でしっかり手をつなぎ、走り出す参加者。どのペアも楽しそうな笑顔です。

### 県境を越え、連携して教育へ取り組みます

～有明高専・荒尾市教委が連携協定調印式～

3月9日(水)、荒尾市教育委員会と有明高等工業専門学校は、連携協力に関する協定調印を結びました。大牟田市にある有明高専は、これまで荒尾市地域再生事業へ協力するなどの実績があります。このたび教育委員会と連携協定を結んだことで、教職員の研修や小中学校への出前講座の依頼など、有明高専から一層の協力が得られることとなります。地域に密着した教育が行われることで、地域社会を担う人材の育成が期待されます。



▲協定書を手にした有明工業高等専門学校の立居場光生校長(左)と、中嶋國治教育長。地域に根差した教育活動が活発に行われる予定です。